第６７号
２０１０年3月

風

発　行
群馬県生協連女性協議会
群馬県前橋市大手町３-１９-３
『風』はホームページでもご覧いただけます
http://gunma.kenren-coop.jp/
Eメール:mail@gunma.kenren-coop.jp

中央地連第３回男女共同参画懇談会に参加　２月４日(木)

人材育成、地域との連携･協力、ワーク･ライフ･バランスなどを学びあいました

２月４日（木)、日生協中央地連の第３回男女共同参画懇談会がコーププラザ（渋谷）で２５生協・都県連から７１名が参加して開催されました。群馬県からは県連と会員生協から４名が参加しました。「ワーク・ライフ・バランス」推進と、「女性リーダーと人材育成、地域との連携・協力」をテーマとして、講演と分科会が行われました。県連女性協から参加した２名に報告と感想をいただきました。

「女性リーダーと人材育成、地域との連携･協力」の分科会に参加して

三生協の取組み報告のなかで感じたこと

Ⅰ　コープながの「わたしが開くはじめての講座」～これからの組合員活動のあり方のひとつとして企画。応募状況・講師 50 人、講座・60 企画、実施講座・7 企画、受講者 21 人で活躍の場を求めている人が 50 人もいたことを評価したい。組合員の中にある経験・知識・技術をコープの中で「教えあい・伝え合う」ことで組合員のつながりや広がりにつながるとおもう。

第２分科会の司会は群馬県連女性協林かの子会長がつとめました。

Ⅱ　パルシステム山梨～子育て広場「ぱるるん」2009 を開催。来場者 2000 人、協力・参加団体 60 はすごい。“富士の麓を元気にしよう、子育てを中心に地域の力を結集しよう”から始まったイベントでセンターが変わり、地域への貢献、みんなが元気になった。

Ⅲ　コープとうきょう～市民主体の地域社会に向けて、いまコープができること。
自治体単位の活動組織として区長との懇談会、自治体への活動参加。ブロック委員を公募したら、社会復帰の一歩として応募してきた人もいたがそれも大いに歓迎すべきだと思う。

女性協運営委員　秋山ユミ子（生活クラブ生協）

第3回男女共同参画懇談会に参加して

この懇談会に参加したのは５年ぶりだったと思います。前回は、男性の育児休業取得の事例に「すごい！」と驚きましたが、５年後の今ではあまり珍しい事でもなくなってきました。が、分科会でのパルシステム山梨さんの報告、地域との大きなイベント開催中にセンター長は育児休業中でした、には、やはり「すごい！」と思ってしまいました。周りの人の理解や、センター長が地域の人たちとのパイプ役をこなすなど作業分担の環境や制度の整備が進んでいるのだなと思いました。

東大の佐藤博樹教授の講演でも、働くことが最優先（ワーク・ワーク）の職場から、ワークライフバランスを考えた働き方の改革の重要性について、いろいろ語られました。単にワークライフバランスの支援制度の導入をするのではなく、職場の環境を整えることが大切であること。管

理職が多様な価値観や生き方、ライフスタイルを受容できる職場作りの鍵を握っていること。その中に休業取得や短時間勤務への対応のできる職場作りが挙げられるとのこと。
　私自身は管理職ではありませんが、理事と組合員活動に置き換えた時、参考となった事はたくさんありました。ワークライフバランスの支援など、今後自分の生協でも考えていかなければと思いました。

女性協運営委員　櫻井禎子（パルシステム群馬）

フートピア21国際協同組合デー記念交流集会に参加　2月15日(月)
～利根沼田で触れ合う自然・森林・農業～inかわば

2月15日（月）、フートピア21「国際協同組合デー記念交流集会」が開催されました。
　参加者は群馬県生協連、群馬県森林組合連合会、JAぐんま女性協、JA群馬中央会から19名の参加でした。～利根沼田で触れ合う自然・森林・農業～をスローガンに、県水産試験場川場養魚センターで群馬のニジマス『ギンヒカリ』の養殖現場の見学、有名な道の駅「田園プラザかわば」で昼食と買い物、利根沼田森林組合で木工工作の体験などを行いました。

《参加者の感想を紹介します》

女性協運営委員　星崎純子（全労済群馬県本部）

春とはいえ、ここ数日寒く、昨夜も山間部は雪とのこと。

川場養魚センター

２月１５日（月）第８７回国際協同組合デー記念交流集会が利根郡川場村で「田園プラザかわば」「県水産試験場」「利根沼田森林組合」で、県生協連、ＪＡ群馬、県森林組合など、参加者１９名で開催されました。バスはＪＡビル駐車場を出発、景色は徐々に白銀の世界へ、そして県水産試験場の川場養魚センターへ到着。緩い傾斜地の養殖用地には幼魚から成熟魚（２、３年以上）に分別されたニジマスを主にヤマメ、イワナ等を養殖しています。普通2年成熟のニジマスの中に稀に見つかる「ギン」と呼ばれる3年成熟のニジマスから、選抜育種という方法で（染色体操作をせず）１０数年の歳月をかけ作り出された品種が『ギンヒカリ』（群馬県産最高級ニジマス）で、商標登録をして普及を図っているとのこと。3年成熟系なので大型に育っても品質が落ちず、刺身や、切身として最適で、高蛋白、低脂肪、良質脂肪酸が多いという『ギンヒカリ』を賞味させていただきました。サーモンピンクの鮮色と食感は鮭のようでニジマスとはとても思えません。養魚センターは山の清流に恵まれたこの地に、昭和8年に設立され養鱒業者への種卵種苗やバイオテクノロジーの技術開発のほか生態系調査などを行い、水産振興に貢献し、県内業者への種苗の供給や普及を図っていることを学びました。

表札を作りました

　次に利根沼田森林組合は５森林組合が経営強化のため広域合併した組合で、水源の森として造林、病害虫の駆除、間伐などの森林整備の活動をしているとのこと。みみずく工房で、切り抜きのひらがな文字を様々な形の名札にはり、各自個性のある作品を持ち帰ることが出来ました。
　今回の川場での養魚、森林の交流集会、多くを学び、体験でき、企画関係者に感謝申し上げます。ありがとうございました。

女性協運営委員　藤原京子（利根保健生協）

第８７回国際協同組合デー記念交流集会が川場村で開かれ、「田園プラザかわば」から合流して参加しました。県連女性協とＪＡぐんま女性組織協議会から７～８名ずつ、県森林組合連合会とＪＡ群馬中央会から２～３名ずつの総勢２０名ほどの視察研修で、マイクロバスで川場村の県水産試験場や利根沼田森林組合を訪れました。県水産試験場の川場幼魚センタ

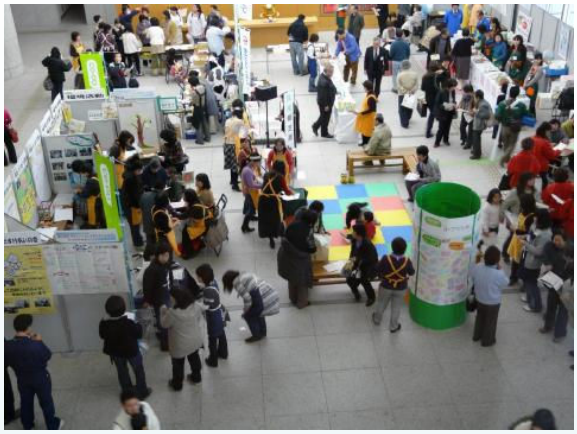
ーでは大きな鱒池がいくつもあり、ニジマスの最高級ブランド『ギンヒカリ』が１０数年の歳月をかけ選抜育種という安全な技法で生み出されたことや、きれいで豊富な水流が必要なため量産できず、ホテルなど限られた施設でしか味わうことができないことをお聞きしました。試食ではわずかにスモークした鮮紅色のギンヒカリをいただきましたが、弾力のある噛みごたえや、紅の美しさは“群馬の紅鮭”だと思いました。

関東甲信越の“訪れたい道の駅”で５年間トップをいく「田園プラザかわば」で昼食の後、利根沼田森林組合直営の「みみずく工房」を訪れ、３月の２１世紀雪まつりや１０月に全国育樹祭が開かれること、吾妻の次に利根沼田は森林面積が広く利根川の水源を守るために重要であることなどを伺いました。

最後に各自楕円の白木にひらがなの文字を張り付け、絵具を塗り表札を作り、かわいい木工製品を購入し、楽しく有意義な川場に別れを告げました。

消費者まつりで各生協の共同参画の取り組みを紹介

2月28日(日)



右手前の人だかりの右に女性協のコーナー

２００９年度消費者まつりが群馬県庁で開催されました。１０時の開会と同時に組合員など大勢の県民が参加し、家族連れなどで一日中にぎわい、２０００人の参加者は盛りだくさんの催しを一つひとつ楽しんでいました。県連女性協は、各生協の男女共同参画の取り組みについてパネルにして展示し紹介しました。

女性協の展示コーナー

＜感想＞

2 月 28 日、県庁で消費者まつりが開催され、午前中の雨にもかかわらず多くの人で賑わいました。

女性協では、「男女共同参画の推進」をテーマに、各生協が取り組んでいることを写真や文章にし、パネルに展示しました。

医療生協の健康体操

女性協を構成している医療生協や購買生協、共済生協では、家族や配偶者の共同意識が高く、比較的協力が得やすいのですが、内閣府の調査では共働き世帯であっても、家事を共同で行う夫婦の割合は 2 割だそうです。その低さに驚き、男性（女性？）も介護や育児休暇を堂々と取れるような環境作りを進めるのが急務であると思いました。熱心に目を通し質問する人もいて、消費者まつりに参加する人は問題意識も高いことに感心しました。

（藤原京子：利根保健生協）

リフォーム衣料の展示コーナー
（くらしの会）

組合員学習交流会（県連女性協議会主催）

「誰もが大事にされ 笑顔でしあわせに生きられる世界をめざして」

講師 木山啓子さん 特定非営利活動法人ジェン（JEN）理事･事務局長

4月3日(土) 10時00分～12時00分
前橋テルサ　8階「けやきの間」

お申し込みは各生協の女性協担当窓口
または群馬県生協連にご連絡下さい。

世界各地での紛争や自然災害などにより厳しい状況にある人々へ支援活動として国際協力を行っている「JEN」では多くの女性が活躍し、困難な中にある女性の自立に向けた支援活動も行っています。これに関連してグローバルな視点から、生協も関わっている難民や災害救済の活動についてお話をお聞きし、生協の組合員リーダー（女性）にとって、また一人の市民としても、さまざまな地域の課題に関心を持ったり活動に参加していくことの大切さについて考えます。

お米を使った おいしいレシピー 米粉で作るさくらもちの巻

材　料（１５個～２０個分）

米粉（上新粉）	半カップ
小麦粉	1カップ
砂糖	半カップ
水	3/4 カップ
食紅	少々
こしあん	400gくらい
桜の花の塩漬け	20個

作り方

① ボールに米粉、砂糖、水を入れ良く混ぜる

② 小麦粉をふるいながら入れよく混ぜる（泡立て器を使うとよい）

③ 食紅をほんの少量入れ色をつける

④ ホットプレートに薄く油をひき、100℃～120℃の温度にする。上の生地スプーン1杯を楕円形にのばす

⑤ 生地の表面が乾いてきたら竹串などで裏返し、裏面も同様にさっと焼いて、ざるなどの上に広げて冷ます

⑥ 皮が冷めたら、丸めたあんをのせて巻く
上に塩をあらった桜の花をのせる

ポイント

★ 米粉のほかに白玉粉、だんごの粉などでもよい。（やわらかく作れます）
白玉粉の場合は、先に少量の水で粒をといておく。

★ 生地が固いようなら水を少し加える。

★ あんの量は皮の大きさに合わせて入れて下さい。